

エネルギーハブとしてのアゼルバイジャン (1) アゼルバイジャンへの石油輸入

ヨーロッパと中央アジアの中間地点に位置するアゼルバイジャンは、その地政学的特徴を生かし、物流のハブとして発展しつつあります。今回はその中でもアゼルバイジャンが輸入している原油について取り上げます。

図は直近 3 年間(2021 年から 2023 年)におけるアゼルバイジャンの原油の輸入元及び輸入量の推移を表しています。トルクメニスタンからの輸入は 2021 年から続いているようですが 2022 年からはカザフスタン、ロシアからの輸入が増加しています。

これらの国々からの輸入量増加の背景としては、どちらも 2022 年に起こったロシアのウクライナ侵攻が関係していると考えられます。特に、カザフスタンは、輸出先の多角化やロシアを迂回した輸出ルートを確保するため、カスピ海経由で石油をアゼルバイジャンに輸出し始めたと考えられます。また、ロシアからの輸入については、ウクライナ侵攻に対する制裁から逃れるためであると考えられ、2023 年にはトルクメニスタンを抜いて輸入元の筆頭に躍り出ました。これらの石油は、おそらくはロシア産も含め、BTCパイプライン経由で欧州へ輸出されます。

上記のように、アゼルバイジャンの BTC パイプラインを経由するルートの利用は活発になってきており、今年も成長する兆しを見せています。既に Azernews 等が報じるところによると、今年 1 月にカザフスタンのアクタウ港から輸出される石油の量が 28.7 万トンに達し、中でもバクー向けの輸出は 6 万トン増の 11.6 万トンと昨年同期比で 2 倍以上に伸びています(残りの石油は全てロシアのマハチカラ港向け)。両国政府間では BTC パイプラインを通じたカザフスタン産原油のさらなる輸出について議論が進められているようです。また、トルクメニスタンに関しても、Trend紙が、最近、整備を終えた原油タンカーがトルクメンバシ港からバクー向けに石油輸送を開始する旨の報道がありました。今後、アゼルバイジャンの原油輸入量はさらに増加することが予想されます。

従来自国産天然資源の輸出が中心であったアゼルバイジャンは、ウクライナ情勢や地政学的な特徴などを要因に、エネルギーハブとしての機能も高めつつあります。注目すべきは、アゼルバイジャンはロシアとの関係も重視していることです。他の物流網についても言えることですが、この点にアゼルバイジャンの強かさを垣間見ることができます。 (以上)

図：アゼルバイジャンの原油輸入元
(2021年～2023年、単位：万トン)

